

目的 清掃への関心や意識が高いと思われる家庭の家庭内清掃の実態やその意識の分析や検討を通して家庭内清掃の変容の要因を明らかにし、現在の住宅や住生活に相応しい合理的な清掃方法を考えようとするものである。

方法 友の会会員へ清掃についての意識、日常清掃の実態、大掃除の実態等についてアンケート調査を行った。調査対象地及び対象者：友の会広島支部会員、主婦またはそれにかわる人。配布数 737件、回収数 416件、回収率56%。調査方法：郵送による留置自記法調査時期：1987年7-8月。

結果 ①調査対象家庭は、核家族（87%）で家族数4人（38%）が最も多い。主婦の年齢は30,40代（65%）で、無職が（75%）多い。②調査対象住宅は戸建て（70%）で、建築後6年以上-20年以内（52%）の木造住宅（57%）で、居住年数も10年未満が過半数を占めている。住宅の規模も建坪は35坪で4-5室と比較的小規模である。③清掃についての意識は、「清掃が好きでも嫌いでもない」が過半数を占めている。しかし、部屋の整理整頓に「気をつけている」が（73%）とかなり多い。そして、1日1回規則的に行っている。清掃への満足度は、「時間がない」「清掃はきりがない」等の理由で低い傾向がある。⑤日常清掃は、朝食後に15分以上1時間未満（79%）で行っている。その手順は、片付け、はたく、掃除機をかける、水拭きであり、D. K. や居間がよく清掃される。⑥大清掃は年に1回年末に7割の家庭で行われている。